

# 初の異形鉄器出土！



縄文時代早期（約9500年前）の  
集石遺構（蒸し焼き料理の跡）



シルバー人材センター会員による発掘作業が進む

一月十七日、岡別府の下堀遺跡で、発掘調査の成果発表がありました。  
下堀遺跡では、古墳時代の地下式横穴墓五基や方形土坑三基、祭祀土坑一基のほか、弥生時代の大型土坑も検出され、中でも、山川町成川遺跡で出土例がある異形鉄器が地下式横穴墓二号で見つかりました。  
弥生時代の大型土坑については、現在、調査中ですが、このように大きい土坑は、南九州での検出例はないとのこと。

## 異形鉄器について

異形鉄器は、南九州特有のもので、五世紀半ばから後半までのものと推測され、その用途は不明。県内では山川町の成川遺跡で発見されていて、大隅半島での発見は今回が初めてのことです。

また、地下式横穴墓からの出土としては、宮崎県小林市真方松ノ元地下式横穴墓の例があります。

この異形鉄器の出土は希少で、それぞれに独自の地域様相（異なる墓制）を持つ、大隅半島と薩摩半島との古墳文化のつながりを考えるうえで、貴重な手がかりになるとのことです。



出土した祭祀土坑の土器



出土した土器や石器の実測作業



異形鉄器（右上ひし形のもの。）